

予習・復習 IT用語

このコーナーでは、最新のものから昔から耳にしているものまで、IT関連用語を新旧取り混ぜてご紹介します。

Q クラウド・コンピューティング

A
インターネットを通して
スケーラビリティが高い
リソース上で
サービスを提供する
コンピュータの利用形態

可用性：システムの壊れにくさのこと。障害の発生しにくさや、障害発生時の修復速度などによって計られる。

クラウド・コンピューティングとは、インターネット上の様々な場所に散在するスケーラビリティ(拡張性)の高い巨大なリソースを使って、利用者にストレージやソフトウェアなどをサービスとして提供する利用形態です。クラウド(雲)とはインターネットを図で表すときに、しばしば雲が使われることに由来します。クラウド・コンピューティングの雲は、膨大な数のコンピュータが接続された巨大なネットワークを表しているわけですが、その雲はあたかも、それ自体がコンピュータであるかのようなイメージも持っています。

利用者は雲に接続さえすればいつでもどこでもすぐにサービスが利用できます。また、一般にWebブラウザ(閲覧ソフト)からの利用を前提にしているため、パソコン、情報携帯端末、携帯電話など様々な端末から利用できます。ネットワーク経由でソフトウェアをサービスとして利用するSaaS(Software as a Service)もこの一種といえますが、クラウド・コンピューティングの方が利用者にリソースの所在や内部構造を意識させないという意味合いが強く、どこでどのように実行されているのかを意識することなく利用できます。

現在Google、アマゾン・ドットコム、セールスフォース・ドットコムなどがクラウド・コンピューティングを積極的に推進しています。しかし、現時点では可用性、QoS(Quality of Service)などに不安があり、企業内の重要な業務での利用には向いていません。また、例えば顧客データなどの重要な情報をネットワーク側(雲の中)に置く場合もありますが、これに関してセキュリティを懸念する利用者も少なくはありません。ところが、最近になってIBMが企業向けサービスをクラウド・コンピューティングで提供するという戦略を発表しました。このようにクラウド・コンピューティングは、ハードウェアやソフトウェアの位置付けを大きく変えてしまう可能性もあり、今後の動向に注目して行く必要があります。

Q iモード

A
携帯電話を使った
インターネット接続サービスの
ひとつ

iモードとは、NTTドコモの携帯電話向けインターネット接続サービスです。iモードを使うと、携帯電話で電子メールの送受信やWebページへのアクセスができます。iモードから閲覧できるWebページには2種類あり、ひとつはHTML(Hyper Text Markup Language)のサブセットであるiモード対応HTML(Compact HTML)で記述されたものです。iモード対応HTMLで記述されていれば、インターネット上のどのWebサイトでも見ることができます。

もうひとつは、NTTドコモが公認した公式サイトと呼ばれるものです。これはNTTドコモの公式メニューに掲載され、料金回収もNTTドコモが代行します。公式サイトには新聞社、放送局のニュース配信、銀行のインターネット・ネットバンキング、証券会社のホーム・トレーディング、航空会社の航空券予約、コンサートなどのチケット予約、ホテルなどの宿泊先予約、そしてエンターテインメント系の音楽やゲームのダウンロードなどの様々な業種のサービスがあります。

iモードは1999年2月にサービスが開始され、2008年8月末現在の利用者数は、約4,800万人です。iモードは世界最初の「携帯電話によるインターネット接続サービス」というビジネスモデルです。また、データ通信時の課金が時間従量制ではなく、データ量によるパケット従量制だという特長があります。

このiモード、日本では大成功しましたが、海外ではそれほど普及しているとはいえません。海外では通信事業者に依存しないWAP(Wireless Application Protocol、携帯端末用の通信プロトコル)対応の携帯電話機が数多く発売されています。iモードは通信事業者の専用機が必要で、WAP対応機と比べて製品数やコンテンツが圧倒的に少ない状況だからです。現在、NTTドコモのiモードは、海外での新たな戦略が求められています。